

ふれあいひろば

松川町社会福祉協議会 Tel. 0265-36-3778 編集・発行 ボランティア連絡会 編集部

*ボランティアだよりは皆様からご協力いただいた共同募金配分金で発行しています。

3.11 追悼セレモニー in 松川



東日本大震災から12年目の3月11日 2時46分、Hugの駐車場で石巻市に向けて黙とうを行い、震災由来のペチュニアの種と一緒にハトやハートの風船を大空に飛ばしました。毎年松川高校ボランティア部が震災直後から行っている「東北支援活動」のお手伝いをしています。風船に励ましの言葉や似顔絵を描いたり、キャンドルの砂入れ、恒例の「おはぎ」づくりや風船のガス入れなど、高校生や地域の方々と一緒に「震災を風化させない」「東北の皆さんに寄り添う」思いを新たにしました。



ひゃくせつふとう

百折不撓

(何度くじけても志をまげないこと)

こんにちは!松川高等学校ボランティア部です。ボランティア部では現在1年生1人、2年生12人、3年生5人の計18人で活動しています。最近では、お世話になっているりんご農家さんのお手伝いをさせていただきました。私たちが知らない作業ばかりで一つ一つが勉強になりました。また、3月21日に阿智村の満蒙開拓平和記念館であった王希奇さんの「一九四六」展に参加させてもらいました。戦争を経験したことがない私たちでも当時の光景を感じ取ることができました。その後、来館して下さった方とお話できる機会がありました。その方は、「当時の自分に会いに来た」とおっしゃっていました。その方たちの思いを私たちボランティア部が今後の戦争を知らない世代へ伝えていきたいです。

また、今年度はコロナ禍でできていなかった東北との交流を実現していきたいと思っています。そして、ボランティアを通して多くの人と手を取り合い全ての人を支え笑顔にしたり、活動を知ってもらったりすることによって気軽にボランティアに参加してもらいたいです。

第40回 福祉を考える集会是

チャンネル・ユーで放映されました



町内へは3月22日の夕方から放送され、その後集会の運営委員会でも視聴しました。見た方からは、「地域でサロンが活発に行われていること、子ども真ん中プロジェクトさんの活動をこの集会を通して知れた」「人とつながりたい思いがさらに強くなってきていると感じる」「『誰でも』『気楽に』『多世代で』がキーワードだと感じ、これからそういったつながりが増えていくといいなと思う」、また、「会場には行けないが映像でなら見ることができるので、集会形式に戻ってもチャンネル・ユーで放送してほしい」という声もありました。

今後はフェイスブック、YouTubeに掲載していますので、ぜひご覧ください。
また、資料の冊子やDVDもありますので、そちらもぜひご活用ください。



↑こちらからご覧になれます↑

傾聴ボランティア たんぽぽの会の報告



「人間が生きる世界には、数知れぬ起伏があり階段があり、平坦な場所の方がわずかなのだ」とある新聞で読んだことがあります。

88歳まで生きて来られたOさんも、たくさんの苦労があったであろうに、そんな事は全くなかったように、いつも私がお訪ねすると、にこにこ迎えてくれます。

「私たちが生きた時代は戦争があった事が一番悲しかったな。でもそれはみんな一緒だったから。貧しいのが当たり前の世の中で暮らして来たもんで過ぎてしまえば苦労とも思わんなん。」

今の生活に対する不平や不満も話された事はありません。

今は昔の若かった頃の写真を見て、同級生の名前を全部暗記しておられ、その方の特徴やしぐさなども笑って話をしてくださいます。小さな写真なので私が見てもさっぱり分かりませんが、Oさんはいつもそれを眺めて微笑しておられます。そしていつも口ぐせに言うことは、「わしは幸せだなあと思っている」と握手をしてその場を離れる事です。

ホーイ元気？

シリーズ

「恵比寿のホテルにて」
「夜、眠れないんです」



この一月、冬の寒さから逃げるが如く、都内の一室に一ヶ月程暮らす事になった。

室内は常に24℃に設定されていてとても快適。三日ばかりは検査もあり日々の一人ぐらしで、自由な時間を満喫していた。術後は点滴やらカテーテルやら管につながれた生活が待っていて、半径2m位の居場所動けず、歩けずの中必死で耐えた。

患部の痛みは薬で緩和されたが昼も夜も寝たきりで、まさに眠れぬ長い夜であった。担当の看護師さんに「夜、眠れないんです」と相談しますと、ゆっくりと優しい顔で「話相手に来ましょうか？ ナースコールで呼んでください」と。えーまさか、そんな事ムリムリ。忙しい夜勤の看護師さんと呼ばれる訳ないじゃん！ そんな事したら話が弾んで、もっと目が冴えてしまうわ」と笑い合った。普通、患者に対して「お薬をお持ちしましょうか？」と睡眠薬を処方してくれるのが一般的だと思っていた。都会の看護師さんは対応が違う。驚きの一言であった。

市原

